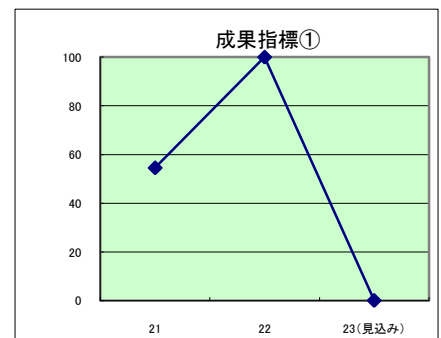
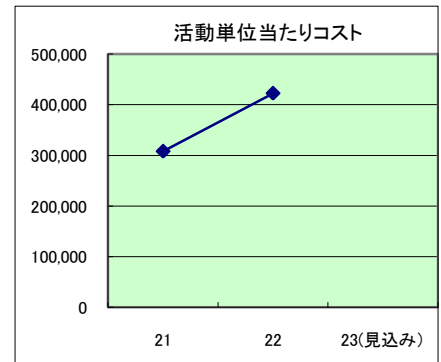


事務事業名	橋梁改修事業		会計	1	一般会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	1	安全・安心、快適で住みやすいまち	予算科目	8	土木費
				款	2	道路橋梁費
				項	3	橋梁維持費
				事業	51	橋梁改修
施策(節)	9	道路交通	作成部署	土木部道路課		
施策の方向	(2)	計画的な道路整備と維持管理の推進	連絡先	072 - 958 - 1111 内線 2280		
関連する計画等						
事業の目的	対象(誰を・何を) 市が管理する橋梁(92橋) 意図(どういう状態にしたいのか) 現状把握の為、橋梁点検を行い、長寿命化修繕計画を作成し、修繕計画及び補修工事を施工する。					
事業の内容	・橋梁1次点検は1級河川に架かる橋梁を対象とし、平成19年に39橋を実施した。 ・橋梁1次点検結果から橋梁2次点検は22橋を対象とし、平成20年度：10橋 実施 平成21年度：5橋 実施 平成23年度：なし 平成22年度：7橋 実施 平成24年度：2橋維持補修及び点検 ・平成25年度は、長寿命化修繕計画書を作成する。					
根拠法令等	道路法 道路構造令 他					
事業開始時期	☐ 昭和 19 年開始 ☐ 明確にはわからない ☒ 平成 19 年開始 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている 終了年度 平成 年度					
事業開始時からの状況変化						
市民や議会の要望						
実施手法	☐ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先	☐ 市外郭団体委託 名称()			委託内容	点検調査業務委託(2次点検)	
	☒ 民間委託 ☐ その他					

区 分		21年度 (実績)	22年度 (実績)	23年度 (見込み)
事業費【1】	(千円)	715	1,806	0
人件費【2】	(千円)	825	1,152	0
職員数				
正規職員	0.11 人	0.16 人	0.00 人	
再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
超過勤務(参考)	(時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費(【1】+【2】)【A】	(千円)	1,540	2,958	0
財源内訳				
国費	(千円)			
府費	(千円)			
市債	(千円)			
その他(手数料・使用料等)	(千円)			
一般財源	(千円)	1,540	2,958	0
活動指標(事業の活動実績)【B】	単位	21年度	22年度	23年度(見込み)
① 点検箇所数	箇所	5	7	0
②				
③				
活動単位当たりコスト(【A】/【B】①)		308,000 円	422,571 円	円
市民1人当たりコスト(【A】/人口)		13 円	25 円	0 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	①	2次点検実施率	%	(式) 点検実施橋梁数÷点検必要橋梁数×100	目標	100	100	達成率(%)	0	
					実績	54.5	100.0	100.0%		
	②	(式)			目標			達成率(%)		
					実績					

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	市が管理する橋梁である為、保守・点検は不可欠である。

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	点検及び維持補修の年次計画（5年/回）を調査する事業である為、継続性を要する。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☒	☐	☐	
	効率性	単位コストが適切である（経年、他市比較など）	☒	☐	☐	橋梁の長寿命化計画書作成に必要な調査・点検であり、橋梁の維持に効率的な事業である。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力（民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど）の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
	有効性	上位の施策（目的）が明確である	☒	☐	☐	橋の長寿命化をして行く上にも有効な事業である。
		上位の施策（目的）への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒	
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☐	☒	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☐	☒	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☐	☒	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	2次点検は、点検必要橋梁に対して100%実施できた。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	平成19年度からの概ね5カ年の橋梁点検・補修は順序だてて、計画通りできている。	
	今後に向けて（取組方針、具体的な改善改革案など）	
行革本部評価	今後、震災に強い道路施設を維持していくためには、交通路輸送路の重要な拠点となる橋梁の維持が必要不可欠となり、次回点検実施サイクル（5年）や長寿命化計画書の策定を平成24年度から国の基準に従い考えていかなければならない。	
	総合評価	評価理由・意見
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	